

山上の説教から学ぶ (31) : 「心配症の対処法」 その 2.

メッセージノート (2021.9.19)

マタイ 6:25-30²⁵ ですから、よく聞きなさい。あなたがたは、何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことを心配したり、また何を着ようかと、自分の体のことを心配してはいけません。命は食べ物よりもはるかに大切ですし、体は着る物よりもはるかに大切ではありませんか。²⁶ 空の鳥を見なさい。種を蒔くことも、刈り入れることも、倉に納めることもしません。それなのに、天にいらっしゃるあなたがたのお父様は、それを養っておられるでしょう。あなたがたは鳥よりもはるかに素晴らしいものではありませんか。²⁷ あなたがたの中で、だれが心配したからといって、自分の寿命を少しでも伸ばすことができますか。²⁸ どうして着る物のことなどを心配するのですか。野の花がどのように育つのか、考えてみなさい。働くことも、自分のために服を作ることもしません。²⁹ けれども確かに、栄華を極めたソロモンでさえ、この一つの花ほどに美しい服を持っていたとは言えません。³⁰ 今日は咲いていても、明日は炉に投げ込まれてしまう野の草さえ、神様はこれほど美しい装いをお与えになっておられるのですから、まして人間であるあなたがたに、それ以上のことをしてくださらないことがあるのでしょうか。ああ、なんと小さな信仰なのか。 (現代訳)

◆ **今日のテーマ**： どうしたら人の目を気にせず (心配しないで)、私らしい (神の目的に導かれた)、もっと充実した (力強い) 人生を生きられるのか？

◆ **現状**： 「もっと光を！」という心の叫び (焦り) を抱えて人生を生き、そして、晩年を迎える人が多いが、そんな私たちに聖書 (イエス) は、どのような対処法を提供しているのかを考察する。

- ・ 最高の装いを用意しておられる神のことがわかっていない私たちは、常に焦って心落ち着かず、なかなか今おこなわれている任務に集中できない。
- ・ 多くの人が、もっと自分らしく、いきいきと、輝く人生を生きたいと思っているが、なかなかそれを見出せず、ついつい人と比べて一喜一憂してしまっている。

◆ **キーワード**： 「考えてみなさい」 (28) という言葉に注目しよう。先週は、空の鳥を「見てみなさい (じっくり)」だったが、この箇所は、イエスの「よく聞きなさい」 (25) から始まり、「じっと見てみなさい」 (26) と勧め、そして今日は、「よく考えてみなさい」と進む。これらの言葉の真意に迫りたい。今日は、特に、「着る物のこと」 (28) が意味していることを考えながら、神が用意しておられる「それ以上のこと」 (30) に注目したい。

◆ **何について「考えてみなさい」と言うのか？**

1. 寿命を延ばすことはできない

a. 「はじめ」と「終わり」： 人生のはじめと終わりを決めるのは神

- ・ 誕生にも臨終にも本人は全く関われない。すなわち、人生の最も重要な出来事に関して私たちは全く影響力をもっていない。
- ・ しかし、主はその最初と最後の部分に関して責任をもって最善を行われる。そのことを私たちはどこまで理解しているだろうか？ 神 (全知全能で愛なるお方) が、私たちの最も重要な最初と最後をしっかりとカバーしてくださるといふのだから、心配は無用。→ **詩篇 139:13-16**

b. はじめと終わりの「間」： すなわち、一生の間、ずっと一時も目を離さない神 (摂理の神)

- ・ 「空の鳥を見よ」からわかることは、その一生の間、毎日、一時も欠かさず私たちの面倒を見ておられる。神に「うっかりしていた」はない。
- ・ 内臓も造り、細胞の一つ一つの活動も、一瞬たりとも見逃さない、私たちを「日々見守る」神。「髪の毛一本一本」もご存知という神の驚くべき関心度 (注目度) の高さ。それを知ったら、私たちはただただ感嘆するしかない

い。→詩篇 121

2. 「着る物のことなど心配するな！」

a. 人からの評価

- ・ 「着る物」と訳された言葉は、外套、上着という意味もあるが、流行やファッションのことを言っているのではない。これは、比喩的な意味で、「うわべ」「見せかけ」「身分」にとられるなということ。

マタイ 7:15 「偽預言者を警戒しなさい。彼らは羊の皮を身にまとしてあなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である」。

- ・ ここでは、単に着物のことというよりも、人からどう思われているのかということ、すなわち、世間体やこの世における成功や立場（出世競争）、また、そこから利得的に得られると錯覚する達成感のことを言っている。

➤ 私たちは、こうした世の評価が、神の与えておられる立場（パウロの「主にあって」）や、なすべきこと（神からの使命、ex. 「パウロの異邦人の使徒」）以上に気になっているかどうかよくよく考えてみる必要がある。

b. 野のゆりの花の一生

- ・ 「**栄華を極めたソロモン**」：当時のユダヤ人の慣用句で、最上級の形容の言葉。ジェバの女王がソロモン王表敬訪問に際し、ソロモンの王宮や神殿の荘厳さなどを見て、思わず発した感嘆に由来する。しかし、どんなに偉大な建造物であっても、人工的に作られたものは、神の創造には遠く及ばない。

- ・ 「**野のゆりの花**」の一生：その美しさは他に比べるものはないほど美しいのだが、たった一日しか咲くことはなく、その姿を見られる（見せびらかす）こともなく枯れていく。しかし、枯れた後は、干して乾燥させ、美味しいパンを焼くために必ず使われた。このゆりの花で窯の火を起こすと、適切な温度と格別な香りを生み出し、絶妙なパンを焼くことができた。このように神はゆりの花にも輝く瞬間とその存在の意味と目的を与えていた。

c. **私たちの人生の輝かせ方を知っている神**：神は、単に生活の保障だけでなく、私の人生の目的と活躍の舞台をも用意している。私の「らしさ（良さ）」の引き出し方をご存知の神

- ・ 神は、私に関する完璧な計画をお持ちである。ゆりの花が「**これほど美しい装い**」（30）を与えられているのであるなら、「**それ以上のことを**」（30）されないわけがないの、「それ以上」とは、「**much more**」という最上の強調表現が使われていて、私たちの想像をはるかに超える麗しさや、美しさを私たちが人生において享受させてくださるから、心配するなと励ます。

- ・ 神は、私の時をご存知で、そのための準備を着々と進めている

エペソ 2:10 私たちは**神の傑作**であって、善い行いをするように、神がキリスト・イエスによって造り変えてくださった。そして、その善い行いも用意して下さったのである。

- ・ 「**傑作**」（ポイエイマ）：神の最高傑作。私たちは例外なく神の大傑作なのである。「**用意して下さった**」：善い行いが行われる「舞台」という意味。神が、私たちが輝く瞬間も場所も用意されているなら、心配し焦ったり、人と比べたりする必要はない。今自分に与えられている任務を忠実に遂行していけばよいのだ。→**ヘブル 13:7-8**

➤ それゆえ、信じなさい（信仰を働かせなさい）と言われる。あなたは、そのことを信じるか？それは、あなたの信仰にかかっている。→**ヘブル 12:5-13**

◆ まとめ

1. あなたは、今何を心配しているか？：将来？人の評価？
2. あなたを輝かせるために、神はあなたをこの地上に送られた。その方法、その時、その舞台も主は用意されている。そのことをあなたは、どこまで信じているか？
3. あなたらしい生き方を見出すために、今あなたはどうしたらよいと思うか？